

0-4 気候変動によるコメの収量及び品質への影響に係る影響評価(水稲)

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考
影響予測手法 及び予測結果	(影響予測手法) 現況の再現性		現況を再現できている	使用した影響評価モデルに含まれていない影響要因(例えば、台風や病虫害)で収量や品質に影響があった場合には現況の再現は困難である。
		○	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった	
			現況再現を実施していない	
	(影響予測手法) 他地域での応用可能性	○	気候シナリオを入れ換えれば、他地域でも実施可能	全国を対象とした影響評価手法であるので、計算条件としての栽培管理情報を適切に設定することで、どの地域でも実施は可能である。
			気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	影響評価モデルは現状では配布できないため、新規に計算が必要となる応用利用には研究者の関与が必要である。
			気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
		○	研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	影響評価モデルでの現況再現には限界があり、将来予測結果の解釈には不確実性の考慮が不可欠である。
○		概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める		
		行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要		
適応オプション	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	コメ生産(収量および品質)への影響に対する適応策は現状でも数多く提唱され、既に実施されており、成果を上げている。本業務で提示した適応策は代表的なものである。
		○	影響予測結果に対応した適応策を提示した	
			影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な適応策の提示を行った	
	導入可能性	○	他地域で実施・導入が可能である	本業務で提示した適応策は汎用性が高いため、地域のニーズや実情に合致していれば、どの地域でも実施。導入が可能である。
			本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
			本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要である	
	他分野との関連性		他分野に相乗効果や副次効果が生じる	栽培暦が変わることにより、他作物の作付への影響や、水資源の逼迫等、適応策導入による他のリスクの増大も考慮する必要がある。
			対象分野のみに効果がある	
		○	他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際に留意が必要である	
	適応策の多様性		適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。	本業務では、使用した影響評価モデルで再現可能な事象に直接関係する適応策の提示に限定されている。
		適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られていた		
○		調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提示できた適応オプションも限られた		

(※1) 現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。